たんちょう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.133
2018.11

JAくしろ丹頂

秋季地区懇談会　開催

音別会場

CONTENTS

- 平成30年度 秋季地区懇談会 ―― 1
- 第29回 ＪＡ北海道大会 ―― 2
- 2018北海道ホルスタインウインターフェア
  ＪＡ青年部・ＪＡ女性部合同 牛乳消費拡大運動 ― 3
- 北のビーナスＢＢＱまつり青年部音白支部牛乳消費拡大運動
  鶴居中学校「職場体験学習」受入
  ＪＡくしろ丹頂組合長杯ゲートボール大会 ―― 4
- 平成26年度以降採用職員 農場実習体験記
  ＪＡバンクからのお知らせ ―― 5～8
- 乳質改善ＰＪ情報局 ―― 9
- 普及センターだより ―― 10
- ＪＡグループ通信 ―― 11
- ＪＡ共済からのお知らせ ―― 12
- 理事会報告/担い手事業実施要領の改正について
  生乳生産実績/辞令発令 ―― 13

北海道ホルスタインウインターフェア
第14部 2位「KWF ゴールド チツプ アン センビユー ET」㈱敬和ファーム所有

平成30年度　秋季地区懇談会

～ 今後に向け建設的な意見・要望等が多く出されました ～

平成30年度 秋季地区懇談会が、10月24～25日の2日間、2会場（音別・幌呂）で開催されました。

組合員の皆様方には、時期的に農作業等で大変お忙しい中、ご出席頂き誠にありがとうございました。

懇談事項として、最近の酪農・畜産情勢等、組合員意向調査表の集計結果、平成30年度下期更正計画、第3次ＪＡ中期計画（機構改革含む）の策定状況等について説明がありました。

出席した組合員の皆様方からは、今後を見据えた酪農・畜産経営の維持・発展に向けての体制整備、農協各部門における持続可能な事業運営方針、機構改革等に対する具体的な質問・意見・要望等が数多く出されました。

今回、組合員の皆様方から出された質問・意見・要望等は今後の事業運営に活かして参ります。

幌　呂　会　場

北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現

時代に即した協同組合の価値創造
食と農でつながるサポーター550万人づくりの拡充

～ 第29回 ＪＡ北海道大会 ～

あぐり王国北海道500回記念プレゼンテーション

パネルディスカッション

11月13日、ＪＡグループ北海道の第29回ＪＡ北海道大会が札幌市において開催されました。

全道のＪＡ、連合会、青年・女性組織等の代表者約２４００名、当ＪＡから7名が参加しました。

今回、大会が開催された意義としては、ＪＡグループ北海道が目指すべき将来ビジョン「北海道５５０万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』」の実現に向け、グループが抱える諸課題に対応すべく、組合員・ＪＡ・連合会・中央会が、意識・目線を合わせるとともに、グループの社会的価値を高め、協同組合の価値と実践を次代に繋げていくことを目的として開催されました。

大会議長はＪＡふらの植﨑博行組合長が務め、議案第１号「協同の力で『農業所得の増大』と『多様な担い手の確保・育成』を実現」、議案第２号「次代につなげる協同組合の価値と実践」の中では、今回新たに「時代に即した協同組合の価値創造」を含む議案が決議され、胆振東部地震など災害からの復旧・復興に向け特別決議も採択されました。

大会では、「多様化する組合員ニーズに応える新たな協同組合の価値創造」をテーマにパネルディスカッションも開かれ、ＪＡ北海道中央会の小野寺俊幸副会長や有識者が登壇し、組合員との関係強化や協同組合間の連携等について意見を出し合いました。又、大会前には、「あぐり王国北海道ＮＥＸＴ放送５００回記念プレゼンテーション」も実施され活動を振り返りました。

今後も引き続き決議事項の実践及びサポーター５５０万人づくり等についてグループ一丸で取り組むことを胸に誓い大会は終了しました。

2018 北海道ホルスタイン ウインターフェア

～ 自慢の牛が全道から集結し資質を競う!! ～

10月28日、十勝農協連家畜共進会場（音更町）で、2018年北海道ホルスタイン ウインターフェアが開催されました。

全道各地からホルスタイン牛193頭が出場し、パット コンロイ氏（アメリカ インディアナ州）が審査にあたりました。

当ＪＡからは、７農場より９頭が出場し、高レベル牛が揃う中、健闘をみせました。

グランドチャンピオンは、標茶町・（株）エフシーエスの出品牛ゴールドマツカチエン ブロード（第13部４歳クラス）が選出されました。

主な入賞牛及び出品者並びに受賞者は表のとおりです。

入 賞 牛 一 覧 （当ＪＡ出品分）

部	順位	名　　号	出 品 者（地区）
2部	3位	アベカーク マライアーク スパーキン	（農）清和農場（鶴居）
4部	14位	TKS モントレー フエイス	清水　武志（鶴居）
5部	11位	KWF モントレー アン センビユー	㈱敬和ファーム（音別）
	13位	ウツズスター ジユデイー スプリーム タラ	林　稔幸（白糠）
6部	8位	HSY ドアマン タラ プリンセス	細谷　亮太（白糠）
7部	7位	A サルサ マツカチエン レジーナ ET	安藤　功（幌呂）
12部	8位	BS フアンシー サンチエスドライブ	㈱大坂ファーム（音別）
13部	10位	ウツズスター ブロー ジユデイー タラ ET	林　稔幸（白糠）
14部	2位	KWF ゴールド チツプ アン センビユー ET	㈱敬和ファーム（音別）

「根釧牛乳」のおいしさをピーアール!!

～ ＪＡ青年部・ＪＡ女性部合同 消費拡大運動を実施 ～

10月27日、コープさっぽろ釧路星が浦店で、当ＪＡ青年部・女性部合同による牛乳消費拡大運動を実施し、両部員６名が、店内の特設売り場で、「根釧牛乳」を無料配布しました。

土曜日の昼時ということもあり、多くのお客様が訪れる中、青年部及び女性部の各部員が根釧牛乳の特徴や美味しさを広くＰＲしました。試飲したお客様からは、「初めて飲むけど美味しい、飲みやすいね」など多くのうれしいお言葉を頂きました。

自信をもって今後もおいしさを伝えていきたいと思います。

北のビーナスBBQまつり 青年部音白支部 牛乳の試飲 好評!!

10月7日、釧路市音別町文化会館で、「2018北のビーナスBBQ（バーベキュー）まつり」が開催されました。あいにくの台風により室内での開催となりましたが、会場には多くの来場者で賑わいました。

青年部音白支部は「根釧牛乳」の無料試飲を実施し、地元産の牛乳のおいしさを大いにアピールし、大変好評でした。

会場では、牛肉の販売や抽選会等が行なわれ、盛況のうちに終了しました。

職場体験学習 受入

～鶴中生　社会学習の一環～

10月11～12日、Aコープつるい店で鶴居中学校「職場体験学習」を実施しました。社会学習の一環として、生徒一人一人が将来の進路選択の一助とするとともに、社会との関わりや社会人としての姿勢を学ぶ目的で行なわれております。

Aコープつるい店では、2年生2名を受け入れ、職員に指導を受けながら仕事を一つ一つ丁寧にこなし、一生懸命取り組む姿が印象的でした。

JAくしろ丹頂 組合長杯 ゲートボール大会 開催!!

10月18日、鶴居村ふれあいセンターで、平成30年度JAくしろ丹頂組合長杯ゲートボール大会が開催されました。当JA主催で健康増進と交流を兼ね、各地区（鶴居・茂雪裡・上幌呂・中幌呂・下幌呂）のゲートボール愛好者27名が参加しました。

審判長からルール説明注意等があった後、コートに分かれて競技が行なわれました。好プレーが続出した中、鶴居チームがみごとに優勝し、大会は盛会のうちに終了しました。

平成26年度以降採用職員 農場実習体験記 No.1

農場実習を実施した職員の貴重な酪農体験記をご報告致します。

白糠支所・金融共済課　八木（やぎ）優紀（ゆうき）

私は、3.5日間五十嵐農場さんで実習させて頂きました。普段金融共済課で業務している私にとっては、搾乳はもちろん、哺乳、エサやり、牛舎の掃除等、全てが初めての経験でした。

特に搾乳については“機械で搾る”と言う私のイメージとは全く違い、前搾りをして消毒し、乳頭を拭いてミルカーをつける一連の動作が、想像以上に大変でした。さらに、前搾りをしてから１分半から２分程度で牛が乳を出すオキシトシンというホルモン濃度がピークになるため、その時間を計算しながら前搾りから消毒までを３～４頭まとめてやっていると聞き、その知識と技術に驚きました。また、哺乳をさせて頂いている際に空腹の子牛が頭突きのような仕草をしたのですが、本来は親牛がその仕草をされることによってオキシトシンを出すと言うお話がとても印象に残りました。

農場には治療中の経産牛もおり、その牛をバケットミルカーで搾乳させていたのですが、そういった治療中の牛が元気にならなかった場合、廃用牛となり処分されると教えて頂きました。思わず、「可哀想」とつぶやいた私に、「酪農家はペットとして牛を飼っている訳ではない。生産性がどうしても必要になる。でも、だからこそ乳房炎等の病気が少しでも減るように努力している。」とお話して頂き、牛への愛情があるからこそ、少しでも長く、出産や搾乳のできる健康な牛でいられるよう大切に育てているのだと感じました。今回の実習では、牛舎での仕事の他に、F-SEEDでの仕事を手伝わせて頂いたり、ハーベスターに同乗させて頂きデントコーンの収穫を見学させてもらうなど、普段の業務では体験することのできない、貴重な経験をさせて頂きました。また、組合員の皆様の仕事を体験することで、その苦労を身を持って知ることができました。今回の経験をこれからの日々の業務に活かしていけるよう、更に努力していきたいと思います。

最後に、農業についての知識もほとんど無く、右も左もわからない私に、優しく丁寧に説明し、楽しく実習をさせて頂いた五十嵐農場の皆様に心より感謝申し上げます。

本所・金融共済部金融課　不藤（ふどう）　佑希菜（ゆきな）

私は、3.5日間、五十嵐農場さんで実習させて頂きました。

農協に入組してから４年間、金融共済部の業務しかしてきておらず、組合員の皆様がどのような仕事をしているのか分からない中で実習が始まり、緊張と不安でいっぱいでした。

搾乳をはじめ、牛舎の掃除、哺乳、エサ押しなど、様々な作業をお手伝いさせて頂きましたが、その中でも搾乳は、前搾り、乳頭拭き、ミルカーを付けるところまですべて手作業で行っており、想像していたよりも大変な作業をしているのだと感じました。また、実際にやってみると、前搾りが上手にできず、一頭にミルカーを付け終えるまでにとても時間がかかりました。ですが、日を追うごとに少しずつではありますが、前搾りが出来るようになっていることを実感でき、また、牛によって乳頭の大きさ、形、位置などの違いがあることや、乳量の違いなども知ることができました。

一日目の搾乳時、乳房炎について教えて頂いたのですが、私が前搾りをした牛の一頭が乳房炎になっており、ヨーグルト状のミルクが出た為、バケットミルカーを使い、別搾りをしました。乳房炎はいつ、どこでなるか分からず、乾乳牛は特に産後になりやすいことや、牛舎の掃除一つで乳房炎のリスクを軽減することができることなどを知り、動物相手のお仕事は、常に病気と隣り合わせで、牛の体調管理がとても重要なのだと感じました。

３日目、４日目には㈱白糠F-SEEDでのスタックシート張りのお手伝いや、ハーベスターに同乗させて頂き、デントコーン収穫の見学をするなど、普段は絶対に経験することのできない貴重な体験をすることができました。いままで牛に触ったことが一度もなかった私にとって、今回の実習は驚きと感動の連続で、学ぶことばかりの3.5日間でした。

五十嵐農場の皆様には、一つ一つの作業を丁寧に説明してくださったり、緊張がほぐれるようにと色々なお話しをしてくださったりと、最後までとても楽しく実習を終えることができました。また、実習を通して、組合員の皆様が普段どのようなお仕事をしているのかを身を持って知る事ができました。

今回の実習で学んだことを今後の業務に生かし、組合員の皆様のため、日々努力していきます。最後になりますが、お世話になりました五十嵐農場の皆様に、心よりお礼申し上げます。

畜産生産部・家畜改良課　辻田（つじた）　泰貴（たいき）

私は、10月１日の夕方から10月４日まで協栄農場さんにて、農家実習をさせていただきました。私の業務上、様々な農家さんを訪問しますが、当農家さんは行ったことがありませんでした。そのため、どのような実習を行うのか、どんな方達なのか、ちゃんとやっていけるか不安でした。しかし、藤澤さんも従業員の方々も優しく、ていねいにご指導して下さり、一生懸命実習に取り組むことができました。学生時代、つなぎ牛舎での搾乳はやったことがあったのですが、パーラーでの搾乳はやったことがなく、普段の業務の中で、農家さんの

パーラーの中を通ってもどのように動いているのかイメージがあまりできていませんでした。実習を行ったことでパーラーの使い方がよく理解でき、パーラー搾乳にあった乳牛改良の大事なポイントが学べました。

次に、哺育牛の実習において、一般市場に出す子牛の値段を予測してみたり、治療を行ったことで、一頭一頭、命を守ること、命を育むことの重要性を改めて実感しました。人工授精は、農家さんの仕事に直接つながる仕事で、やりがいと責任のある仕事であることを自覚していましたが、今回の実習を通して、より一生懸命に仕事をしていかなければならないと痛感しました。

そして、農家さんの大事な仕事の一つである、エサ作りのコーンサイレージにおいて、スタックサイレージの調整に参加させてもらったことで、エサ作りの大変さ、重要性を学びました。スタックシート掛け、タイヤのせの作業と比較的負担の軽いものでしたが、人手がいないと個々の負担はその分大きくなっていくのだなと実感しました。作業の中で、山のように積まれたデントコーンが足元にあり、今年の台風がそれほど被害を生まずに済んだことを感謝したいと思いました。

以上の実習で学んだことから、私は今後の業務の中で、農家さんとの信頼関係をつくっていく上で、乳牛改良の求められているニーズ、命を産むための人工授精の責任、農家さんが大事にしていることをより理解を深めていきたいと思いました。最後になりましたが、忙しいなか、実習を受け入れて下さった協栄農場さんに深く感謝します。ありがとうございました。今後ともお世話になると思いますが改めてよろしくお願いします。以上で私の実習体験記とさせていただきます。

畜産生産部・牧場課　山岸（やまぎし）　教平（きょうへい）

私は、今回協栄農場さんに3.5日間の農業実習をさせて頂きました。今回の農場実習で協栄農場さんの１日の作業と酪農を営む大変さを知ることができました。

実習の主な作業としては搾乳作業と哺育牛の哺乳をメインに作業体験をしました。どちらも初めての作業で作業の手順や作業効率をあげるコツを身につけるのにはかなりの時間がかかりました。作業をするにあたって感じたことは１日の作業の流れを効率的に行うために朝の搾乳で捕獲する牛にもくしをつけたり、肢を見ればその牛の疾病を分かるようにバンドや肢にマーキングを色分けをしていることがとても工夫されているなと感じました。

普段、育成牧場で作業をしていて育成牛の飼育管理をしていますが、今回、子牛や親牛の飼育管理も勉強することができ、今後の業務にも生かせる事が多々あり良い刺激を受けることができました。

今回、実習を受け入れて頂いた協栄農場さんには大変お世話になりました。実習を引き受けて頂き、ありがとうございました。

本所・購買部燃料課　山本将平（やまもとしょうへい）

私は、今回清和農場さんで酪農研修をさせて頂きました。初日は夕方からの搾乳でした。搾乳体系はパーラーで機械の数は16台ずつの32台で朝と夕の２回搾りです。

今まで牛に触れた事はありましたが搾乳はした事がありませんでした。作業工程は乳頭を消毒→前搾り→乳頭の洗浄→搾乳でした。単純作業ではありましたが、想像していたよりも重労働な作業でした。

２日目以降は朝は哺育の管理、昼は施設の説明等をして頂き、夕方は搾乳でした。今回の酪農研修をして組合員さんはこんな大変な作業を毎日行っており従業員と共に酪農を支えている。

農協職員の自分に組合員さんに何ができるのか。また、組合員さんは何を農協に求めているのか。を考えさせられました。

大切なのはまずコミュニケーションであり、朝の挨拶や何気ない会話の中でも人づくりが大切だと教えてくれました。

また、この充実した期間を過ごす事ができたのも、上司やこの研修を手配してくれた皆様、農協の役職員の皆様、そして自分を快く受け入れて下さった清和農場の皆様のお陰だと思います。本当に感謝しております。研修をしたこの経験と知識を糧に、これからの業務に励んで行きたいと思います。本当にありがとうございました。

乳質改善ＰＪ情報局

乳房炎防御！3つのポイント

乳房炎を防御するための手法や技術、これは山のようにあります。

たとえば「搾乳刺激からユニット装着まで何秒が適切であるか」などは良く耳にするところでしょうが、その他にも「ディッピング液の有効ヨウ素の濃度は何％であるべきか」、「乳頭清拭は1頭1布が基本」、「自分から遠い方の乳頭から清拭する」、「搾乳後にすぐに乳牛を横臥させない」、「ＳＡ罹患牛は後で搾る」、「ビタミンＥの適切な使い方」、「ミルク配管の径の太さと角度のあるべき姿」、「ミルクラインの生乳の流れをチェックしたところ貴牧場の場合は…」などなど際限がありません。細かなことを言えば１００や２００程度ならすぐに挙げられるでしょう。乳質改善を期待し、こうした様々なことに丁寧に取り組まなければならないとなると本当に大変です。場合によっては搾乳を始めとする舎内の日常作業に結構な手間がかかるようになり、また買わなければならないもの、投資すべきものが生じることも少なくないでしょう。もちろんそれによって期待した以上の成果がもたらされるのであれば大変に結構なことでしょうが、手間やコストの割に成果はさっぱりだ…ということになればテンションは下がるばかりです。その一方、乳質管理に優れた実績のある農場が先のような事項をひとつひとつ遵守しているかというと、その例外はいくらでもあります。どうも乳質改善について現場で成果を挙げるためには、乳房炎防御指南書の類にあるような内容を単純になぞるだけでは上手くいかないのは、乳牛が身をもって呈してくれているのは厳然たる事実のようです。このことは技術や情報、知見などが重要ではないという意味ではなく、課題解決のためには、しっかりと現実に向かい合うことが何よりも先決であるということを表すものでしょう。

バットを闇雲に振り回し、飛んでくるボールに当たればラッキーというのでは打率は稼げません。まず球筋を見極めることが欠かせません。同様に農場内で体細胞数を押し上げる要因を精度高く見極めることができれば、ポイントを絞った対策ができ、効果的な結果にも結びつきやすくなります。外部の方に乳房炎防御の具体策を提案された場合、少々意地悪かもしれませんが、どうしてその対策が自分の農場に適切であるかという考えに至ったのか、あるいは提案した対策をしないことが現状の体細胞数を押し上げることになるのかについて理論的な説明を求めてもよろしいかと思います。その結果、なるほど納得と思えるような価値ある内容であるか、あるいは搾乳経験のほぼ皆無のお勉強好きな人の単なる思い付きに過ぎないのかを推し量ることもできるでしょう。さらに怪しげな資材や高価な添加物に手を出さないで済むことにもなります。

乳房炎の発症状況を見極めたうえで、具体的な対策を考える際に次の3点について課題がないかチェックすることは重要なポイントとなります。

・乳頭周辺から
　乳房炎原因菌を減らす
・原因菌の入り口をガードする
　（乳頭口の保護）
・射乳後の生乳の流れを
　保証する

次号以降で順番に解説していくことといたします。（続く）

※情報提供は釧路農協連より

分娩事故を減らすために ～分娩予知通報システムの紹介～

北海道における乳用牛頭数は減少傾向にあり、乳量生産は従来に比べて伸び悩んでいます。

課題として、後継牛をどのように確保するかが重要であり、子牛の死産を減らすためには、分娩管理改善への取組みが必要です。

1 分娩事故による死産率

鶴居地区の死産頭数は、直近7ヶ月で325頭でした。これは分娩頭数の9%です。戸別では死産率が10%を超える農場は21戸あります。死産率5%以下が目標であることから、分娩事故が多発していると言えます（図1）。

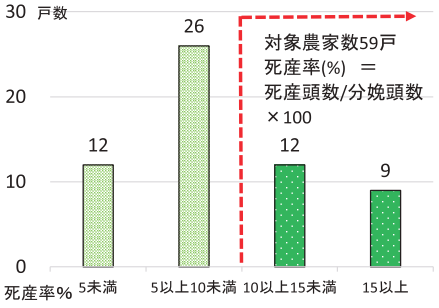

図1　鶴居地区死産率の分布
（H30年4月～10月共済調）

2 分娩の兆候と進行を理解する

分娩事故を減らすには、分娩管理の見直しが必要です。

そこで、正常な分娩の兆候と分娩の進行についてまとめてみました（図2）。ここでは、ポイントのみを整理してお伝えします。

「兆候」

①分娩3週間前
乳房・乳頭が腫脹、外陰部が腫脹する
②分娩2～3日前
子宮外口部が拡張する
③分娩前日
尾根部両側の靱帯が弛緩する
体温が急激に低下する

「進行」

①子宮頸管が拡張
陣痛が始まる。牛は頻繁に尾を上げながら寝起きを繰り返す。胎児が産道に進入する。
②胎児の娩出
母牛が踏張ることで、尿水を含んだ膜が破裂（**第一次破水**）する。さらに蹄が見え始め、羊水を含む膜が破れて蹄が現れる。

図2 分娩の兆候と進行（石井三都夫氏DairyJapan2010年11月号を参考に記載）

管理者は母牛の体温低下を確認し、第一次破水を見つけることで、その後の対応を決めることができます。

しかし、管理する人が少ない、ほ場作業が多い等、母牛を常時観察するのは難しいことです。そんな時、分娩開始を伝えてくれる便利な装置があります。

写真1 第一次破水を確認
（石井三都夫氏提供）

3 分娩予知通報装置の利用

今回は「牛温恵（ぎゅうおんけい）」について紹介します。

この装置は、膣内に装着することで、分娩前特有の温度低下を検知し、携帯電話へ「段取り通報」を伝えます（写真2～4提供は大分県農林水産研究指導センター）。

写真2　丸印が体温感知センサー

それから約24時間後に第一次破水が起きると「駆けつけ通報」が知らされます。管理者は、「段取り通報」が来るまで分娩を気にせず、他の作業に集中できます。また、「駆けつけ通報」が来れば、分娩牛舎に行き、異常が無いか確認し、その後の対応を決めることができます。

分娩管理にお悩みの方は農場に合った装置等の導入を、是非、検討されてはいかがでしょうか。

写真4 体温感知センサー装着完了

写真3 センサーを分娩予定1週間前に挿入

ＪＡグループ通信
JAグループ北海道×コンサドーレ札幌『北海道応援マッチ』特集号

毎月、ＪＡグループ北海道の連合会・中央会の活動を紹介しております。今月は、平成30年９月29日に北海道コンサドーレ札幌ホームゲーム（ｖｓサガン鳥栖戦）をＪＡグループ北海道と北海道コンサドーレ札幌による『北海道応援マッチ』として開催しましたので、会場での各取り組みをご紹介します。

ＪＡ北海道中央会

＊ＪＡグループ北海道は、北海道コンサドーレ札幌とともに、スポーツを通じてたくさんの皆さまに食や農業の大切さを伝える活動を行っています。

９月29日のサガン鳥栖戦は、ＪＡグループ北海道と北海道コンサドーレ札幌による『北海道応援マッチ』として開催しました。

来場者に全道各地のＪＡ特産品を５５０名様にプレゼントする企画や、ＪＡグループ関係のブースを回るスタンプラリー抽選会、「ＪＡ２ＭＰ」チェックインキャンペーンを実施しました。試合はコンサドーレの劇的な勝利に終わり、ＪＡグループ北海道よりＭＶＰ賞の贈呈を行いました。

チームのさらなる活躍を期待し今後も北海道を共に盛り上げるパートナーとして応援して参ります。

ＪＡ北海道信連

ＪＡバンク北海道では、会場で「口座開設を予約して頂いた方」に抽選でコンサドーレ観戦券またはコンサドーレ・オリジナルマフラーを、「ちょリスと一緒に撮影し、ＳＮＳに投稿して頂いた方」にちょリス・ブランケットをプレゼントしました。小野伸二選手も応援に駆け付け大盛況となり、多くのコンサドーレサポーターの方にＪＡバンクをＰＲすることができました。

ホクレン

ホクレンは来場者先着２００人に顆粒片栗粉「とろりんぱっ」を配布したほか、「ホクレン大収穫祭」の告知及び全国発送のチラシを配布し、来場者に対してＰＲを行いました。ブースには北海道コンサドーレ札幌の田中雄大選手、藤村怜選手、クラブマスコットの「ドーレくん」が相次いで応援に駆け付け、配布を手伝うとともに、快く握手などに応じ、集まったサポーターたちを喜ばせました。

ＪＡ共済連北海道

ＪＡ共済連北海道は、地域貢献活動の紹介チラシを作成し、粗品とあわせて配布することで、交通安全を呼びかけました。

また、小さいお子さまには、ひとのわグマのおなかを的にし、ボールを投げていただくゲームで楽しんでいただき、大盛況となりました。来場者の皆さまにＪＡ共済連の交通安全にかかる活動を知っていただくことができました。

ＪＡ北海道厚生連

ＪＡ北海道厚生連からは配置薬課より「野菜酵素青汁」と「草筍譜Ⅲ（入浴剤）」の配布を行い、稲本選手もブースにかけつけてくださり、多くのサポーターの皆様に集まっていただき大盛況となりました。

今後も北海道コンサドーレ札幌の活躍を応援していきたいと思います。

JAの自動車共済加入者向け

突然の「事故」や「故障」など緊急時に心強いスマホアプリ!!

JA共済 くるまのミカタ

お車のトラブル時にアプリを利用すれば受付窓口へのスムーズな連絡が可能です。

1 レッカー・ロードサービスの要請

受付窓口 JA共済サポートセンター

1. GPS機能で位置情報を送信することができます!
2. トラブル状況の画像を送信することができます!
3. お車情報を自動送信します! ※ご利用時に事前登録がされていないと、お車情報はJA共済サポートセンターに通知されません。

➡ 必要な情報をJA共済サポートセンターに送信でき、迅速にレッカー・ロードサービスを受けられます!

2 事故受付

受付窓口 JA共済事故受付センター

1. GPS機能で位置情報を送信することができます!
2. お車情報を自動送信します! ※ご利用時に事前登録がされていないと、お車情報はJA共済事故受付センターに通知されません。

➡ 必要な情報をJA共済事故受付センターに送信でき、迅速な事故受付が可能となります。

※JA共済事故受付センターにトラブル状況の画像を送信することはできません。

事故や故障が発生した際には、JA共済サポートセンターまたはJA共済事故受付センターの専門スタッフがいつでも(24時間365日)対応いたします。ぜひ、お持ちのスマートフォンにアプリをご準備ください。

※アプリご利用時の通信料は、ご利用者さまのご負担となります。

アプリのダウンロード

無料でダウンロードできます。

〈 アプリダウンロードはコチラから 〉

Download on the App Store / Google Play

くるまのミカタ 検索

※iPhone、iPad、App Storeは米国及び他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
※「Android」「Google Play」はGoogle Inc.の商標または登録商標です。

■ ご注意事項

交通事情、気象状況等により、対応業者の到着に時間がかかる場合またはサービスのご提供ができない場合があります。ご利用者さまのご契約内容・トラブル状況によっては、サービスの一部または全部がご提供できない場合があります。ご利用者さまのお使いの機種および設定によっては、位置情報を必要とするサービスをご利用いただけない場合があります。アプリで提供されるGPSによる測位結果の位置情報は、利用環境やGPS衛星の電波状況により、位置が表示されない場合または実際の位置と誤差が生じる場合があります。詳細はアプリ内の「JA共済くるまのミカタ」利用規約をご確認ください。

※このチラシは「JA共済くるまのミカタ」の概要を説明したものです。詳細につきましては、お近くのJAにお問い合わせください。
※スマートフォン向けアプリのため、フィーチャーフォンの場合はご利用いただけません。また、お使いのスマートフォンの機種・設定等によってはご利用いただけない場合があります。
※本アプリは、JA共済の自動車共済に加入されている方向けに無料提供するものです。
※このチラシに記載している画面はイメージです。実際の画像と異なる場合があります。

JA共済

たんちょう VOL.133 平成30年11月発行 ■編集発行 釧路丹頂農業協同組合管理部管理課 ■印刷 白糠印刷㈱

理　事　会　報　告

10月定例理事会　平成30年10月30日（火）

報告事項

1．専決事項及び諸会議について
2．各委員会・諸会議等について
3．９月末財務状況について
4．事業の実施処理状況について
5．内部審査の結果について
6．経営定期点検の実施結果について
7．平成30年度釧路丹頂農協哺育育成センターカウハッチハウス及び草舎建設に係る一般競争入札の経過と結果について
8．㈱ジェイエーコムズ取締役会の報告について
9．㈱ジェイエーコムズにかかる監事監査報告について
10．新規就農・担い手対策サポート事業要領の一部改正について

付議事項

議案第１号　平成30年度営農振興資金の貸出条件の設定について
議案第２号　融資の承認について
議案第３号　平成30年度釧路丹頂農協哺育育成センター カウハッチハウス及び草舎建設に係る契約の締結について
議案第４号　諸規程等の一部変更について

その他協議事項

1．秋季地区懇談会における意見・要望等について
2．当面の業務日程について

新規就農・担い手対策サポート事業実施要領の一部改正について

新規就農・担い手対策サポート事業の実施要領を一部改正しましたのでお知らせいたします。

従前は、農場実習生受入支援事業については、JA及びJAの所在する市町村が連携協定を締結している高校・大学・専門学校の農場実習生の受入れに限り、受入農場に対し生活費用等の一部について助成していましたが、連携協定を締結していない学校からの農場実習生を受入した場合も、受入農場に対し生活費用等の一部について助成できるよう要領の一部を改正いたしましたので、お知らせいたします。

詳細は、本所営農相談課、支所営農課に確認願います。

■平成30年度	生乳生産実績（10月）			
	月計乳量（kg）	10月前年比(%)	累計乳量（kg）	累計前年比(%)
ＪＡくしろ丹頂	8,379,508.0	102.5	60,052,514.2	103.4
鶴居地区	3,137,753.4	104.5	22,213,933.4	106.6
幌呂地区	2,169,809.9	99.5	15,497,606.8	100.5
白糠地区	1,658,837.8	102.2	11,941,593.9	100.0
音別地区	1,413,106.9	103.2	10,399,380.1	105.2
管内計	43,745,767.4	100.7	311,480,304.5	100.2
（前年度管内計）	43,430,127.1		310,985,357.2	

辞　令　発　令　（平成30年10月１日付）

氏　名	新　所　属	旧　所　属
長屋英俊	営業部 農業振興課哺育育成センター係長	畜産生産部 販売課販売係長
若狭就杜	白糠支所 販売課販売係	畜産生産部 販売課販売係
神谷　治	畜産生産部 販売課販売係長	白糠支所 販売課販売係長
野々村峻彦	白糠支所 販売課販売係長	白糠支所 販売課販売係

編集後記 EDITOR'S NOTE

□第29回ＪＡ北海道大会が終了し、８～９月に全道各地区で実施された組合員組織討議の結果を踏まえた将来ビジョン及び大会議案が示され決議・採択されました。農業所得の増大及び担い手の育成、サポーター550万人づくりの拡充に加え、時代に即した協同組合の価値創造（協同組合理念に基づく人・組織づくり・事業運営、地域の課題解決に向けた協同組合間の連携強化）を含む目標が決定し、「北海道550万人と共に創る力強い農業・豊かな魅力ある農村の実現」を目指し、組合員皆様方のご協力のもと、決議事項の実践に取り組んで参りますのでよろしくお願い致します。